



広報誌：「遊便」（第19号）  
 発行：医療法人 仁風会 八雲病院  
 発刊日：2020年10月1日

## 巻頭言

「コップに半分の水。」

多いと見るか、少ないと見るか」

理事長 角南眞

COVID-19が世界中で猛威を振る  
 い、人種や国籍に関係なくこの星の全ての人が  
 大変な時を過ごしています。また御存じの  
 通り、身近な所で大規模なクラスターが発生  
 し、当院や施設をご利用になる皆さんにも毎  
 回の検温や生活状況の聞き取り、また福祉施  
 設の活動縮小や時には一時中断など、様々な  
 ご苦勞をおかけしています。

感染予防と通常の活動を維持することは  
 相反する場合も少なくなく、どこにラインを  
 引くべきかについては法人内で日々話し合い  
 を続けています。今のところ誰も完全に正し  
 い答は持っていないのですが、今後少しずつ  
 このウイルスについて分かる事が増え、ワク  
 チンや治療薬の開発に近づくことを願って、そ  
 れまで共に闘って下さいますよう、お願い  
 致します。

さて、人が物事を認識するときの例えとし  
 て「コップに半分の水があります。これをあな  
 たは多いと思いますか、少ないと思います  
 か？」というものがあります。同じ量の水を見  
 ても、ある人は「もう半分しか残っていない。  
 もうダメだ」と悲しみ、別の人は「まだ半分も  
 ある。ああ良かった」と喜ぶ、というものです。  
 つまり、全く同じ現象を目にしたり体験して  
 も、それをどんな「現実」として捉えるかはそ

の人次第で、その現実やそれに伴う評価・感  
 情・反応などはその人の頭の中で作り出され  
 ているということです。

悲観と楽観、どちらが良いか悪いかというこ  
 とではありません。どちらの認識にも良い点  
 と悪い点があり得るでしょう。しかしこれから  
 言えるのは、私たち一人一人それぞれの中  
 でも物事の見方や感じ方を少し変えることが  
 できるのではないのでしょうか？

もしかすると人生の達人とは、「自身の認知  
 が偏りすぎてないか、悪いとしか思えない事  
 の中に何か光を見いだせないか、明らかに良い  
 と思っている事が実は誰かを傷つけてない  
 か：」など常に自分の考えや行動を見直し、  
 認知や行動を微調整することで、より良く幸  
 せな日々を送れる人なのかもしれません。

この世界が重苦しい雰囲気にも包まれてい  
 る現在、いつもより輝いて見えたり、今だから  
 こそ気付く大切な事は本当に何ひとつ無いで  
 しょうか？  
 マスクを通してではありませんが、新鮮な空気  
 を少しばかり吸って、そんな事を考えていま  
 す。

巻頭言	1	遊便第十九号：もくじ
感染予防対策の徹底を	2	
職員のコロナつぶやき	3	
法人アクセス	4	

発行元：  
 〒690-0033  
 松江市大庭町1460-3  
 医療法人仁風会 八雲病院  
 広報委員会  
 電話：0852-23-3456

昨年末、中国武漢市で新型コロナウイルスが確認され、その後世界中に広がりました。今年3月にはWHOがパンデミック宣言をする事態となりました。

当法人においては、感染予防対策委員会を中心として、当法人を利用される皆さま、並びに職員の安全・健康のためにコロナウイルスへの感染予防対策を日々取り組んでいます。

未だ衰えることのない新型コロナウイルス感染症。収束に向かったと思いきやまた感染拡大しています。世界中が悪夢の真ただ中にあるようです。眼が覚めてみたら世の中のコロナが風で吹き飛ばされていなくなっていれば良いのに・・・とSFめいたことを考えて布団に入ったことがあります。そんなことはおこりません。残念ながら。明日のことさえわからず誰も展望をもてません。原稿を書いている「いま」とこの広報誌が発行される時とまた違う感覚でコロナウイルスに対峙していることでしょう。

## 精神科の抱える感染課題

病院や施設の集団感染が大きな問題になっていますが、他県の精神科病院で何件か院内感染が発生しています。精神科病院の抱えている問題があります。

まず、病院が感染症に対応した構造ではなく、当初から、皆と交流する、場を共にすることを精神科の是としてつくり、デイルームに人が集います。また、高齢者や合併症のある方が多く入院されています。各々の感染防御に対する意識改革もはじまったばかりです。感染症がいったん病院内で発生すると、集団感染、重症化することが避けられないと考えています。

## 感染者への差別・中傷

また社会的な風潮も問題です。悲しい記事を目にしました。愛媛県松山市内の精神科病院でクラス



ターが生じたことを絡めながら同市内障害者福祉事業所の通所者を中傷、事業の活動自粛を求めるビラが送られてきたとの記事です。心ない中傷ビラの言葉に利用者が傷つけられました。その他にも、感染者や医療従事者やその家族に対する差別や偏見が生じたことは報道からご存じのことと思います。

そもそも感染症は善悪の範疇で考えるものではありません。残念ながら、山陰地方の発生でも感染者に対し、過度な中傷、批判や、感染者を特定するような動きもありました。嫌悪からの、中傷、誹謗、差別。ウイルスそのもの以外にも注視しなくてはいけないことがたくさんあります。

## 基本の徹底を

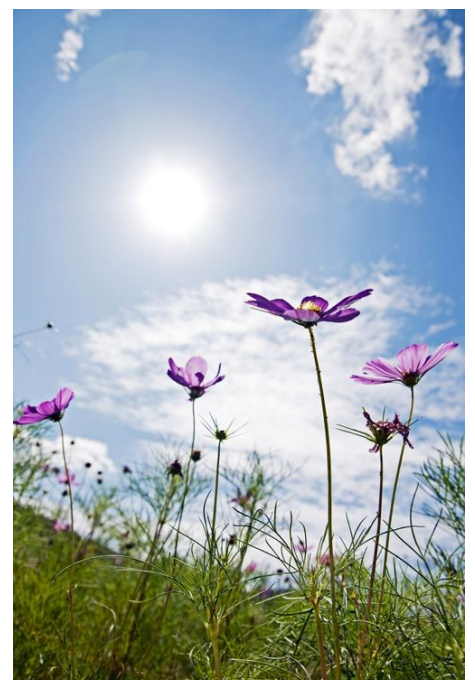
これらの理由から、感染対策の必要性を痛感しています。人と近距離で接する機会の多い医療従事者は感染リスク源となり得るため、各自が感染症に対する意識を高めていくことが重要です。院内感染の主な原因として、病棟間の人の移動、職員の休憩室、ロッカー、食事、リハビリ施術のあとの

消毒が不十分であった等があげられています。結局は、病院であろうと、家庭生活であろうと、新しい生活様式に沿い、3つの基本感染対策、手指衛生、環境消毒、換気を徹底していくことが重要です。基本感染対策は、正しいやり方で行い習慣化すれば決して難しいものではありません。手で物を触り、顔面を無意識にかまひ、口腔、鼻粘膜、眼から感染してしまう。また飛沫が顔面にかかってしまうこともあります。これらには感染経路遮断のため、手洗い、洗顔、手指消毒、マスクが役に立ちます。人と間隔を空けて、密を避け、マスクを外して話さない、食事をする際は会話をしないなど、随分寂しい生活様式が推奨されています。

精神科で良しとしてきた価値観とは全く正反対です。孤独になっていませんか？疲れきていませんか？お互いに声を掛け合いこのコロナ禍を乗り切りましょう。

(感染予防対策委員会

佐藤幸子医師)





寝ても覚めてもコロナ一色の日が続きます。

2020年7月、本法人の全職員を対象に、コロナ禍の状況下、各々が身の回りで感じたエピソード、考えをアンケートとして集めました。それぞれが大変な思いをしていたり、一方で思わぬ副産物を手に入れたり…など、多くのつぶやきがありました。以下、その一部をご紹介します。

### 得たもの、気づき

- ◇ ペスト(黒死病)がイギリスのパブ文化を育てた。そしてルネッサンス文化がヨーロッパで開花した。感染症対策によるひきこもりで歴史に残った産物あり。
- ◇ 手洗い、うがい、消毒が身につけてよかったです。
- ◇ 外出できないことで、自宅でゆっくり本を読んだり家族と話をするのができた。
- ◇ 外出を控えたことで、ガソリン代や外食費が抑えられた。
- ◇ 10万円もらい助かりました。コロナ禍の中、家の片づけ、外の草取りがはかどりきれいになりました。
- ◇ 柄にもなく、お菓子作りをするようになりました。
- ◇ 外出自粛でストレスがたまりましたが、お家時間が増えて普段作らない料理を作ったり、トレーニングをしたり、楽しめました。トレーニングは今も続けていて、少し引き締まったように感じて嬉しく思っていますが、島根県のプレミアム飲食券を注文したので元に戻りそうです(笑)
- ◇ ステイホームと言われているころ、暇を見つけては近所の野山に散策に出かけ山菜採りをしました。わらびやぜんまいはレシ

ピを見なくてもOKになってしまいました。「ごごみ」という名の山菜を新たに教えてもらい頂きました。灰汁もなくおいしかったです。来春に向けて、出かけたときはたくさん生えてそうな場所をチェックしています。

◇ 「テレワーク」はできなかったけど、ピアノのオンラインレッスンを体験して「私って時代の波にのっているんだわ」と思いました。

◇ 自粛期間中、おでかけはできませんでしたが、庭にトマトを植えて、家庭菜園を始めました。毎日子どもと水やりしたトマトがたくさん実をつけました。子どもも毎日うれしそうに収穫しています!おでかけができない中、トマトの成長が自粛期間中の楽しみの一つでした。

### その他

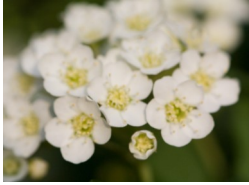
◇ 知人に当院のコロナの発生状況を問われ返事に困っている。近所の人に自分が医療関係者である事が分かっているの、気を使って、なるべく近所の人と会わない時間買い物に行くよう注意している。コロナに感染したらどうしようと不安が強い。

◇ 志村けんさんが亡くなった時は、大変ショックでした。亡くなる前も亡くなってからも、家族に会えない事実は感染症の新型コロナウイルスの恐怖を感じました。これから先、自分の身にも降りかかるかもしれません。(コロナ以外でも)後悔のない日々を送り、家族や周囲の人にも感謝の気持ちを伝えていきたいと思っている今日この頃です。

◇ コロナウイルス発現依頼、クラスター、オーバーシュート、ソーシャルディスタンス、ステイホームや3密、PCR、「新しい日常」など耳新しい言葉を次々と否応なく覚えさせられました。世界がどうなっていくのかという不安と、身近なところでは院内感染が、そして自分がウイルスに罹るんではという恐怖を感じます。いずれ終息するはずだし、でも変異するウイルスとバランスをとり生き延びるしかないんですね。ヤレヤレ…。

◇ コロナで生活が変わり、今までの当たり前前の生活が早く元に戻る日を日々願っています。なるべく不要な外出は控え、自粛を心がけているつもりです。





わたくしたちは心の声を大事にします  
 わたくしたちは医療水準の向上に努めます

八雲病院

## 医療法人 仁風会

○八雲病院(外来診療時間午前中のみ受付時間)

平日8:30—12:30/土 8:30—11:30

休診日…日曜日、祝日、お盆、年末年始

松江市大庭町1460-3

電話(0852)23-3456

FAX(0852)23-3495

・デイケアたんぼぼ(精神科デイケア)

月曜日—金曜日 午前9:30—15:30

・デイケアやくも(重度認知症デイケア)

月曜日—金曜日 午前9:00—15:30

・八雲病院 居宅介護支援事業所

○コスモス(自立訓練【生活訓練】事業所)

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3360

FAX(0852)23-3370

○ビ・フレンドリング(地域活動支援センター・相談支援事業所)

松江市大庭町1461-3

電話(0852)23-4111

FAX(0852)23-4112

○雲陽の里(認知症グループホーム・介護保険)

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3700

### ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・ご感想などございましたら、是非下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会八雲病院、広報誌「遊便」共々よろしく願い致します。

(医)仁風会 八雲病院  
 広報委員会まで

### 苦情・意見件数

2020年2月～2020年8月

16件(主にコロナ対策に関する事でした)

### 編集後記

前号を四月に発行した後、世界中で新型コロナウイルスによるパンデミックが発生し、私達の生活は大きく変わりました。  
 感染予防のため、なかなか人と会えない状況の中、コロナ前の日常で何気なく行っていた、「人と話す」、「繋がる」、「共に過ごす」ことの有難みを改めて日々感じています。

(笠置)

お知らせ

### ホームページのご案内

当法人の各種サービスについてホームページで紹介しております。スマートフォンにも対応しています。ぜひご覧ください。

アドレス <http://www.yakumohp.net/>

